

小中学校における現状と課題について (小中学校校長先生の意見より)

○ 小中学校の現状

- ・ 経歴 10 年未満の教員が約半数を占める中で、課題は次々と学校に下りてくる。
(城東区内の小学校の経歴 10 年未満の教員の割合 43%、中学校での割合 53%)
- ・ 教頭先生にも過大な負担がかかっており、精神論だけでは乗り切れない状況となっている。
- ・ 小規模校では、教員は研究発表を視察に行けない状況である。
- ・ しっかりとした仕組みや組織体制が必要。

○ 具体的な課題

【課題 1】学力の底上げ・格差の解消

課題	具体策	実施に向けた問題点	
・ 育児放棄（ネグレクト）や就学援助世帯の増加等の影響もあり、学習習慣が身についていない児童生徒が増加しており、学習の習慣付けや学力アップが課題 ・ 小学校の「放課後ステップアップ」や、中学校の「学校元気アップ事業」の活用には一定の限界や制約がある。	・ 中学校で、「学校元気アップ事業本部」と連携した夜間学習会の実施（平成 27 年 9 月～ 実施予定）	・ 学習会実施にあたっては、実施主体・責任の所在を明確にする必要がある	・ 夜間、夕方とも、勤務時間外となるため、教職員での体制づくりは困難
	・ 小学校で、夕方の時間帯（16 時 30 分～18 時 30 分）での学習会の実施できないか（検討段階）	・ 実際に勉強を教えるボランティアスタッフの確保。	・ 小学校高学年以上に学習指導する場合、相応の学力が必要となるため、学生ボランティア等の確保が必要 ・ 児童生徒のプライバシーを考えると、校区外の人材が望ましいとの考え方もある。
	・ 学力アップに取り組む NPO 法人との連携（中学校実施中）	・ 受入人数等のキャパシティに限界がある。	

【課題２】寝屋川の事件を受けての対応

課題	具体策	実施に向けた問題点
・背景には、育児放棄（ネグレクト）やDV、学習塾への通学による深夜の外出の常態化があるのでは。 ・深夜の対応には、学校では限界がある。地域や警察、区役所との連携が不可欠。	・家庭、保護者への啓発・働きかけ	・関心のない家庭、保護者にどのようににはたらきかけるか。
	・防犯カメラの増設などハード面の強化	・ハード面の強化にあたっては、原資の確保 等
	・深夜の青パト回数の増、公園等での声掛け（警察や地域など）	・実施体制や安全の確保
・スマートフォン問題。自分たちの身近に危険があることの認識を、児童や保護者にどう伝えるか。	・スマートフォン対策として、夜 9 時以降はスマホを子どもに持たせないなどのキャンペーンはできないか。	・スマートフォン対策については、関心のない保護者にどのように働きかけるか。

【課題3】多様な人材による学校サポート

課題	具体策	実施に向けた問題点
・ICTや英語など、授業に関するオーダーは多様化しているが、教員へのサポートは必ずしも十分でない。 ・理科指導などの一部の分野でのサポート制度はあるが、各学校のニーズに沿った柔軟なサポート制度はない。 ・小学校でのブラスバンドや能楽などの課外の実践について、指導者や専門家の確保が十分でない。	・発達障がいサポート制度のように、教員をサポートする制度で支援(有償ボランティアの派遣)するメニューを増やせないか。	・制度の拡充・新規立上げを行う場合、教育委員会等の既存の制度との重複がないよう留意する必要がある。 ・原資の確保。ただし、発達障がいサポート制度など、既存の制度を縮小することがないよう配慮してほしい。
	・学校が、児童生徒向けの講座や職員向けの研修を行う場合の講師謝礼の支援できないか。	
	・大阪市教育振興公社の講師派遣制度(無料)の活用。	
・発達障がいサポーター、学校図書館のボランティア、習熟度別や産休の代替の教員など、需要があるのに、人材が確保できない場合がある。	・区のホームページ等での人材募集。学校のホームページへのリンクや連絡先を学校にしたり、区単位で人材をプールしたりできないか。	

【その他の課題】

○ 防災・減災教育

【課題】

- ・ 平日昼間に災害が起きた場合、中学生は体力もあり戦力になることから、中学生も地域の訓練に参加すべき。
- ・ 今後、土曜授業などで地域や消防と連携してやっていきたい。他校での取組実績で、初めてでも実施可能な方法などを教えてほしい。
- ・ 大震災のときなど、中学校が避難所となったときに、避難者の名簿整理等も学校側が行っていたと聞く。事前に名簿の様式を学校に渡しておくことも必要なのでは。
- ・ 中学校区内の地活協の防災訓練への中学生の参加要請のオーダーがまちまち。ある校区は中学校2年生の派遣を求められ、ある校区は校区内の中学生を、など。

○ 学校選択制

【課題】

- ・ 区によっては、1校から約40人も抜けたケースもある。
- ・ 家庭訪問の距離が延び、日数が余計にかかる。
- ・ 校区外で児童が遊ぶことをどう考えるのか。
- ・ 抽選で外れた生徒が、いったん住所を校区内に移して、その後、前の住所に戻し、指定外就学で通っている例もある。

【対応】

- ・ きっちりとした検証を。

○ 中学校給食

- ・ 1年生を中心に美味しいという声が多くなるなど、全体の評判は上がってきている。
- ・ 3学年全員喫食になるに当たり、配膳員の増などの対応はあるのか。
- ・ 異物混入に対しては、もっと厳しいペナルティが必要では。